

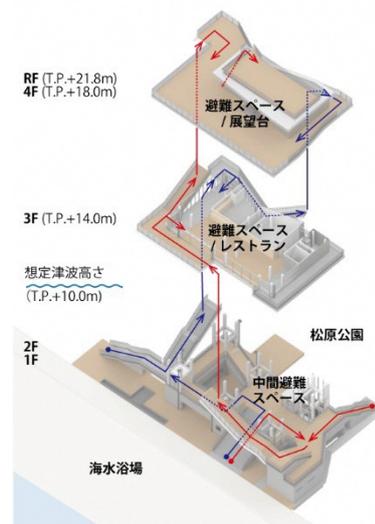
松原公園津波避難複合施設 Terrasse Orange toi について



©Hiroshi Ueda

テラッセ オレンジ トイは、防災と観光の機能を高度に融合させた、日本初の津波避難複合施設です。津波の到達しない海拔14mの高さに避難床／展望フロアを浮かべ、災害時には1200人の避難スペースとして、日常ではレストランや展望台として活用しています。避難床へ至る2本の幅広階段を建物外周に配置し、地域に不慣れな観光客でも避難経路が一目で理解できるだけでなく、日常的な散策で松原と海の壮大な景観を体験できる経路として設計されています。日常的に観光施設としての役割を果たすことで、利用そのものを避難訓練とし、地域住民や観光客の日常的な防災意識を高める効果が期待できます。

松原・海・夕日などの自然を映し込む素材選択や、構造の柱が松原の幹と連続するようにした工夫などによって、環境と調和する外観としています。建築は海水浴場と松原公園の間に建ち、松原を貫通する海や山への新しい「門」として設計されており、自然と人工が融合した新たな松原の風景が創出されています。



上) 海からの外観

下) 建物の構成



上) 3F避難スペース/レストラン
 平時は海への眺望の開けたレストラン、災害時には避難スペースになる

下) 夜間の外観
 手摺に照明を設け建物を柔らかく照らし、松原公園全体と調和するライトアップを計画。災害時が夜間でも、避難経路がわかりやすく、安全に避難できるようにしている

名称：伊豆市津波避難複合施設 Terrasse Orange toi (テラッセ オレンジ トイ)

所在：伊豆市土肥2657-6 松原公園内

設計：東京大学生産技術研究所 今井公太郎研究室+日本工営都市空間株式会社

施工：土屋・青木特定建設工事共同企業体

構造：鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造（基礎）、鉄筋コンクリート造（トイレ棟・階段棟）

階数：地上4階建て（建築物の最高高さ18.8m）

避難スペースは3階以上（想定津波高さ海拔10m+余裕高4m）

用途：避難所、飲食・物販店舗

【災害時】一時避難スペース（避難面積約600m² 避難者数約1,200人）

【平常時】地域交流の場、農林水産物等の物販、飲食の提供、観光情報の発信、休憩所、展望台

事業費：約12億8百万円

事業期間：令和元年度～令和6年度（竣工：令和6年6月）

施設運営：株式会社 土肥ノベーション（指定管理者）